

マネジメントコース研修生のつづやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 地方自治体職員が、自治大学校で一年間を過ごす研修。研修期間中の概ね半分は自治大学校の実務に従事、半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することによって、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

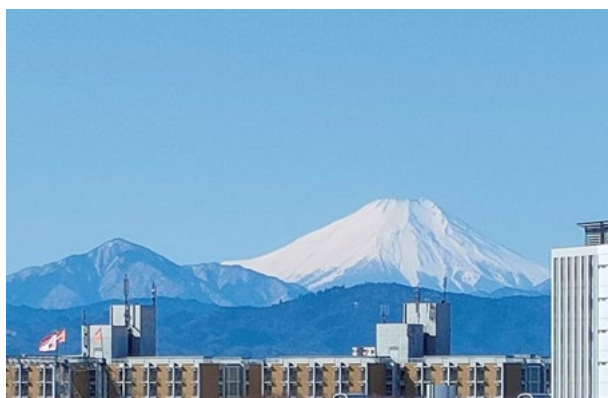
昨年4月からは研修生活、研修が終わった8月からは教務部の仕事に従事しています。教務部のなかで私が担当している課程担当という仕事は、研修の企画立案から実施、そして終了からまた次期研修計画の策定というPDCAサイクルで動いています。これまで研修業務に携わった経験はありませんでしたが、過去から蓄積された先輩職員の丁寧な仕事の引継ぎと周りの職員の皆さんのサポートもあり、2月には各地から集まった研修生を無事地元へ送り出すことができました。現在は、来年度からの研修課程の見直しを踏まえた次期研修課程の時間割編成を主に担当しています。

ただ仕事ばかりではなく、せっかく東京に住んでいるのだから、いろいろな観光地を訪れて見識を深めたり、趣味のスポーツ観戦に勤しんだりと休日はそれなりに忙しく都内を動き回りました。また、SNSなどの情報をもとに美味しそうなお店の行列にもよく並びグルメを満喫しました。寄宿舎生活では自炊ができないので(元々自炊していたわけではないが・・・)、どうしても食事は外食が多くなります。その結果、体重の成長曲線はやや危険な域に達しつつあります。こればかりは、この1年間で最も反省する点であり、地元に戻ってから健康的な食生活と適度な運動を心がける所存です。

さて、早いものでこの執筆時点で3月を迎え、こちらに来てもうすぐ1年が経とうとしています。初めて立川市に来て、多摩モノレールに乗って、そして自治大学校の建物を見てここで1年間生活するという期待と不安の感情に包まれたあの日を懐かしく思い出します。

この4月に地元に戻ると、私自身浦島太郎みたいな状態で、新しいシステムの導入や仕事そのもののやり方が大きく変わっている可能性もあり、戻ってすぐついていけるか不安もありますが、ここで培った知識や経験、そして何より同期の研修生の仲間のことを思い浮かべながら、精一杯働きたいと思います。そして、自治大学校に行く後輩がいれば、魅力や研修の素晴らしさを伝えていきたいと思います。

未筆ながら、自治大学校の関係職員の皆様には大変お世話になりました。そして家族にも改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。(M. M)



立川から望む、雪化粧の富士山